

東日本大震災ボランティア活動報告書（#2）

日 時：2011年5月27日（金）～5月29日（日）2泊3日

活動地：宮城県亶理町

参加者：HY、KI、HS、MO、CK（以上5/27～5/29）、YK、NK（以上5/28～5/29）の7名（内下線メンバー6名がJ-VIPA）

交 通：KI 所有車、CK 所有車、YK 所有車

宿 泊：亶理町町民の広場内で野営（テント2張）※J-VIPA 所有のテント

旅程・活動内容：

5月27日（金）：HY、KI、HS、MOは20時高田馬場集合、小平経由で外環道・東北道で翌日3時に亶理町着、町民の広場にてテント設営、CKは水戸発翌朝亶理町着

5月28日（土）：7時半朝食、8時半亶理町災害ボランティアセンターにて登録、荒浜地区の私道約70mの両側の側溝の泥だし（10時半～15時半）、16時ボランティアセンターに戻り、備品返却と活動報告、17時荒浜地区の被災状況視察、18時自衛隊風呂入浴、19時夕食、20時反省会、22時就寝

5月29日（日）：朝の時点で雨天のため作業中止命令が下される、朝食後テント撤収、9時半現地発、東北道・常磐道で茨城県那珂湊へ移動、現地視察後13時半昼食、14時半解散（CKは水戸へ、他は東京へ戻る）

経 費：高速代+ガス代37,521円／備品代38,461円 合計75,982円（累計111,598円）

※Eatonville 募金から支出

特記事項：

- ・亶理町災害ボランティアセンターは佐藤記念体育館内にある。
- ・ボランティア受付は朝8時半開始で、新規参加者は名簿に名前、住所、電話番号、活動期間、ボランティア保険加入有無を記載する。ボランティア保険未加入者については、その場で加入手続きを行ってくれるが、保険料は自治体負担となるので、できるだけ東京で加入していくことが望ましい。受付を澄ますとポストイット2枚を受け取り、名前を記入する。マッチングが成立するとそのポストイットが指示書にホチキス留めされ、参加者がどの案件に参加したのかが記録に残るシステムになっている。ボランティアセンターでは、ボランティアが待機し、コーディネーターの呼びかけに応じて手をあげ、マッチングされていく。作業内容や車の有無などの情報を瞬時に判断し、手をあげないといつまでたってもマッチングされない。今回は、最後の案件にうまく名乗り出て参加できたが、それを逃していたら午前中の仕事はなかったかもしれない。この日のボランティア総数は759名とのこと（ボランティアセンター発表）。
- ・マッチングで重要なのは、まず一輪車を載せることができる車を所有する者に優先権が

あり、その後にさらに必要な人員を補充するやり方で決まっていく。電車で到着したのか交通手段のないボランティアは意外と多かった。

- ・今回の案件は、Bibles for Japan という団体と J-VIPA がともに手を挙げ、総勢 18 名で活動に参加した。全体の責任者は J-VIPA 代表の H.Y.が務め、相手側の通訳兼リーダーは日系アメリカ人の K.H.が務めた。
- ・出発前に指示書とラジオを受け取り、個数チェックを受けた道具を持って出発する。
- ・作業現場はボランティアセンターから車で 10 分くらいの場所で、荒浜という町内で最も大きな被害を受けた地域である。
- ・被災した各住宅は、緑、黄、赤の 3 色の旗がかかっており、赤は倒壊の恐れのあるため取り壊す住宅、黄色は倒壊の恐れのある住宅、緑は倒壊の心配のない住宅であることを示す。住宅関係のボランティア作業は、黄色と緑色の住宅のみ派遣される。
- ・今回の依頼主は荒浜地区の 14 件の住宅団地の住人からで、団地私道の両側の側溝を約 70m に渡って蓋をはがし、泥だしを行った。側溝の蓋はとても重く、バールを用いて浮かせ、人力ではがして道路上に置く作業をまず行い、その後、スコップおよび鋤簾で泥をすくい、一輪車で泥置場までピストン輸送をする手順で行った。午前中に片側を片付け、昼食をはさんで午後は反対側をすべて片付けることができた。教訓として、側溝の泥だし作業の際は、もっと多くの竹ぼうきを借りていくべきであった。
- ・トイレは使用できないので、車で移動しつつ近くのコンビニを利用した。この地区には電気が通っていないので、発電機でお湯を沸かしてくれたらしい。
- ・昼食時に自己紹介を行い、日米の国際交流で盛り上がった。
- ・住宅団地の住人も数名の方が作業に合流し、泥だし作業を手伝ってくれた。また、住人が昼食時にお茶をいれてくれ、我々に感謝の意を表してくれた。作業終了時には依頼主を囲んで記念撮影をし、現場を後にした。
- ・テントを張る場所は、駐車場脇の芝地で、限られたスペースである。町民広場以外には、前沼公園という場所にもテントは張れるらしい。
- ・朝 7 時の時点で雨天中止のお知らせを各テントにスタッフが伝えてくれた。
- ・亘理町中央児童センターの駐車場に自衛隊が営む無料で利用できる風呂があり、我々ボランティアも利用させてもらった。
- ・地元にお金を落とすことも復興支援の一つであるので、夕食はレストランを利用した。
- ・大型スーパーマーケットは普通に営業しているので、そこで夜食と朝食を購入した。
- ・阿武隈川河口付近は壊滅的な被害状況で、誰も住んでいない。また「鳥の海」一帯が瓦礫の集積所となっており、うず高く積まれている。
- ・茨城県の被災状況を確認するべく、ひたちなか市の那珂湊を目指した。魚市場で有名な場所で、市場も 1 階部分が浸水する高さで津波が押し寄せたとのこと。修復できた建物からお店は営業を再開しており、多くの観光客に戻ってきてほしいとのこと。

以 上

PHOTOS



マッチング



荒浜地区



側溝の蓋はずし



泥の運搬



側溝の泥だし1



側溝の泥だし2



側溝泥だし3



自衛隊風呂